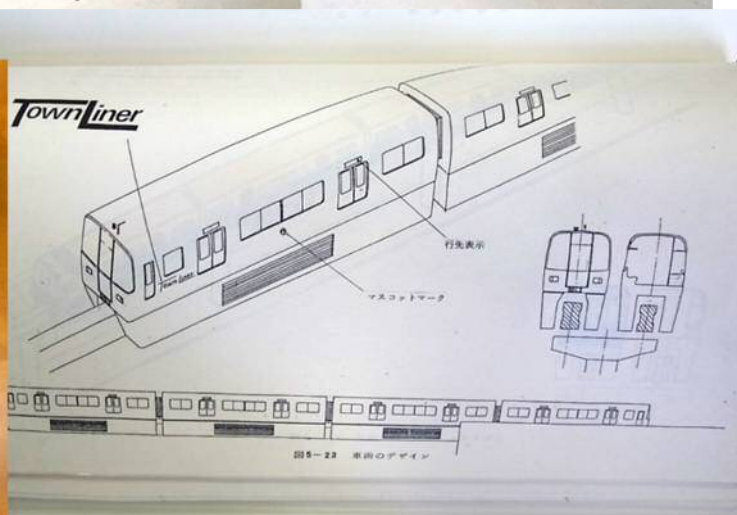
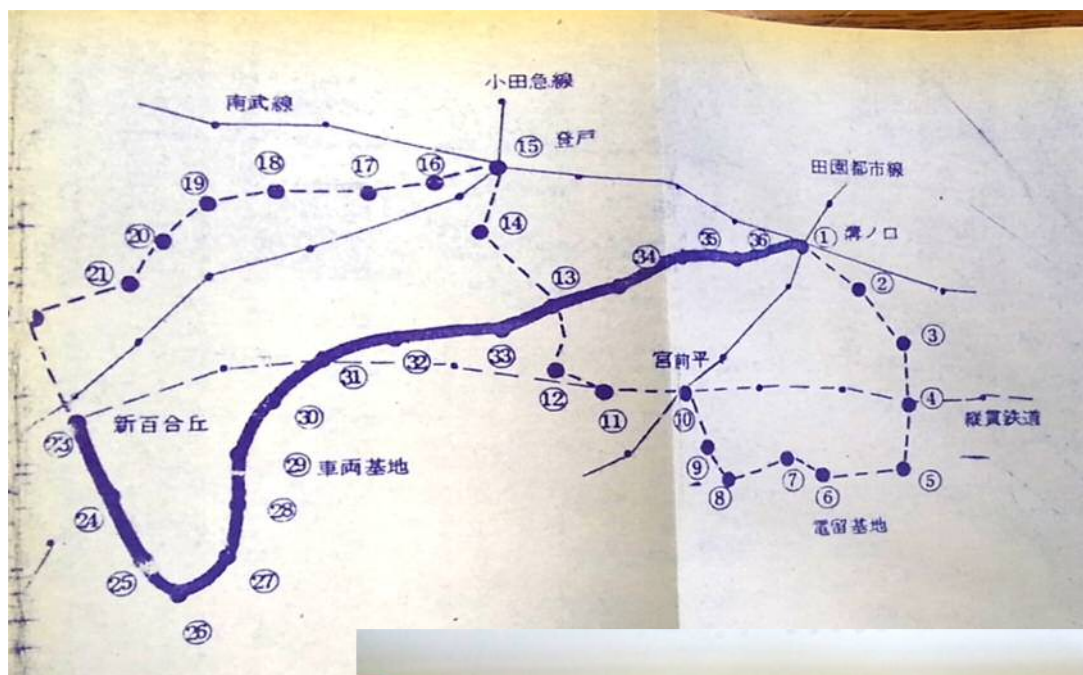




第42号 平成30年10月



川崎市では以前、都市モノレール計画を検討していました。上の写真は当館所蔵の歴史的公文書、「昭和55年度及び昭和56年度都市モノレール計画関連基礎調査報告書」の一部です。

計画では、溝の口駅—新百合ヶ丘駅間を循環するおよそ38kmのルートで、緑ヶ丘霊園、東高根森林公園、生田緑地、聖マリアンナ医科大学病院等を通るものでした。しかしながら道路の幅員等様々な要因により、今では幻の計画となりました。

シリーズ 古文書の言葉の謎に迫る！ No.5 「術無し」

古文書の言葉シリーズ第5回目は、「術無し」という言葉です。「術無し」は、「すべなし」と読んで、「方法がなくてどうしようもない」などの意味で現在でも使われる言葉です。しかし、古文書をみると、昔の人はこの言葉を「すべなし」とは読んでおらず、時代によってさまざまな読み方をしていたことが分かります。今回は、古文書の言葉の読み方の謎に迫ります！

古代・中世では、「術無し」は「ずちなし」と読んでいたことが、複数の史料から分かります。『枕草子』や『栄華物語』などにも、「ずちなし」という表現がよく登場します。「術」を「すべ」と読んでいた史料は見当たりません。『類聚名義抄』という平安末期に作られたとされる辞書にも、「術」という文字の読み方は、「ノリ・ミチ・タノシ・ネガフ・ヲキテ・タノム・バケ」とあり、「すべ」とは読んでいないことが分かります。もともと「術」という言葉は、「みちで行うわざ、呪術」のことを表す言葉で、そこから「手だて」などの意味で使われるようになったようで、もともとの意味では「すべ」と読むような意味では使用されていませんでした。その後、近世になると、「術無し」は「ずつなし」と若干読み方が変わります。この「ずつ」は現在でも主に長野県で「ずつない」「ずくない」などの方言として使用されているようです。

実は、古代・中世から「すべなし」という言葉も使用されていました。この「すべなし」は「術」ではなく「為方」「為便」（「為」は動詞の「～する」、「方・便」は方法という意味）や「計」という漢字などをあてて使われていたようで、「術無し」とは異なる言葉として古文書には登場します。古文書をみると、昔の人は「すべなし」と「ずち・ずつなし」は別々の言葉として使用していたということになります。

では、なぜ「術」を「すべ」と読むようになったのでしょうか？ はっきりとしたことは分かりませんが、「すべなし」という言葉の「すべ」に「術」という漢字をあてるようになったとする説が有力です。江戸時代には、「術」を「しべ」と呼んでいる史料がみられるようになるため、江戸時代頃には、「術」を「すべ・しべ」と読むようになったのでしょう。

このように、古文書の言葉の意味だけでなく読み方にも注目してみると、当時の人々がどのような状況の下、どのような意味で言葉を使用していたのかということが読み取れるのです。

片言隻句 一公文書廃棄雑感一

今年度も公文書廃棄を行う時期が到来しました。6月～7月にかけて、保存年限を満了した1種・2種・3種の公文書群約40トン

を廃棄しました。廃棄業者によってテンポよくトラックに積み込まれていく搬送箱を見ているとまさに圧巻です。積み込まれた公文書はこのまま焼却施設に運ばれて一片のかけらも残さず溶解処理されることとなります。

当館の廃棄作業は、当館職員だけでなく、各区役所の職員も参加して行われています（各区役所さんには、廃棄文書が綴じられていたファイルを提供する形で作業のお手伝いをお願いしています）。今年度は、前年度の廃棄作業参加者も多く見受けられ、作業も効率よく迅速に終わることができました。

暑い中、みなさんお疲れさまでした！！



シリーズ 歴史担当のお仕事

第5回 「歴史担当の業務その2 資料整理」

前回は「古文書」の収集・受入の作業内容・方法を詳細にご紹介いたしました。今回は「整理」作業をご紹介します。「整理」作業を経てから展示や講座などで使用することができる「史料」になるため、「整理」作業は重要な作業といえます。なお、「整理」方法や「整理」行程の順序は人によって様ではないので、今回取り上げた「整理」作業は当館で行っている作業方法を記しています。

① 「現状記録」

まず、「収集」「受入」した資料は「現状記録」をとります。

「現状記録」とは資料がどのように管理されていたのかを記録する作業です。現在では「整理」作業をする際には、出所が同一の資料を他の出所の資料と混同しないようにしています（「出所原則」）。また、所蔵者が資料の保存位置に意味を持たせていた場合、その意図を検索できるようにするため、もとの秩序を保存しなければならないことになっています（「原秩序尊重原則」）。そのため、整理した後も最初の状態がどのような状態であったかが分かるように記録しておく必要があるのです。

「現状記録」は、現在ではデジタルビデオカメラなどで撮影・録画することが多くなっていますが、スペースが限られている場合、昔は一般的であった紙にスケッチする方法をとることもあります。

② 「燻蒸」

「現状記録」をとった資料は、次に「^{くんじょう}燻蒸」されます。

「燻蒸」は殺虫・防カビのために行ないます。字にあるような煙で燻す方法は昔のもので、現在は専用の資料に影響のない科学的な気体や薬剤を使用した方法で行ないます。部屋全体を気体で「燻蒸」する方法、袋の中に資料を入れて気体または固形薬剤で燻蒸する方法などがあります。当館では設備の関係上、袋の中に資料を入れて固形薬剤で燻蒸する、一番安価な方法を採用しています。

「燻蒸」した資料は次に③「台帳登録」、④「目録作成」の作業を行ない、資料を公開する土台となる作業に移ります。続きの「整理」作業については次回ご紹介します。



袋の中に入れて固形薬剤で燻蒸する「モルデナイベ」での燻蒸の様子

— 川崎市に関わる「古文書」を探しております —

当館では川崎市に関わる江戸から昭和期まで含めた「古文書」などの歴史資料の調査・収集を行なっております。もしご自宅に何なのかよく分からない、または置場が無くて困っている「古文書」などがございましたら、是非当館までご連絡の上、ご相談ください。歴史担当が懇切丁寧に対応いたします。

なお、相談以外にも「古文書」の所在地についての情報提供も受け付けております。現状、置場の問題、世代交代、引越しなどでそれら「古文書」が散逸してしまうということが多くなってきました。それを防ぎ、川崎市の歴史を語るそのような「古文書」を守っていくため、皆様のご協力を何卒いただきたく存じます。

今年度の講座の予定について

詳しくは、市政だより又は公文書館のホームページでご確認ください。

興味をもったら、どしどし応募するニャ!

入門古文書講座

初心者を対象とした講座です。

[その1]

- ◆講師 伊藤 哲平 (当館非常勤嘱託員)
- ◆日時 6月17・24、7月8・15日 (日)
13時半～15時半
- ◆場所 会館とどろき
※好評のうちに終了しました。

[その2]

- ◆講師 菊地 悠介 (当館非常勤嘱託員)
- ◆日時 12月頃を予定しています。

歴史講座

「村にあった鉄砲の話」

近世の村の様子を資料から読み解きます。

- ◆講師 落合 功氏 (青山学院大学教授)
- ◆日時 10月7日 (日)
14時～16時
- ◆場所 生涯学習プラザ401大会議室

※募集は終了しました。



古文書講座

※1月頃を予定しています。



昨年のテーマ：
「江戸時代の訴訟」

(昨年の様子)

歴史講演会

※2月頃を予定しています。



昨年のテーマ：
「南武線の歴史をたどる」

(昨年の様子)

◇開館時間

午前8時30分から午後5時まで

◇休館日

毎週月曜日

祝日法に定める休日 (休日が月曜日に当たるときは火曜日も休館です。)

年末年始 (12月29日から1月3日まで)

川崎市公文書館

〒211-0051 川崎市中原区宮内4-1-1

電話 044-733-3933

FAX 044-733-2400

E-mail 17koubun@city.kawasaki.jp

ホームページ 「川崎市公文書館」で検索

